政治経済学 II

第 13 回：グローバルな格差

矢内　勇生

法学部・法学研究科

2015 年 7 月 15 日

神戸大学

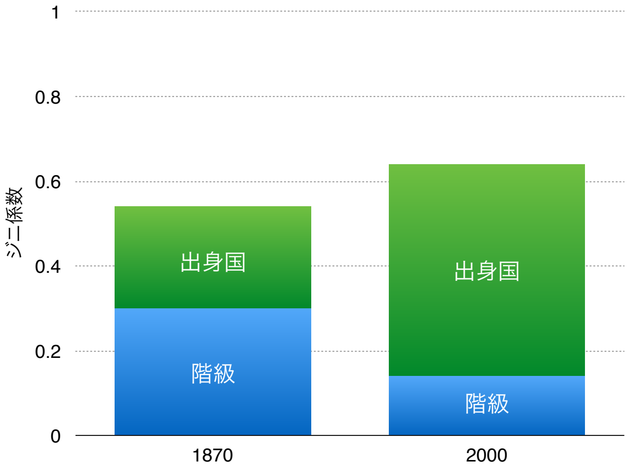
今日の内容

1. イントロダクション
   - 国家内の格差、国家間の格差、グローバルな格差
2. 国家間の格差
   - 国家間の格差
3. グローバルな格差
   - グローバルな格差

階級による格差？

- 誰と誰の格差か？
- 1 国内の政治、かつての世界：階級対立
  - 資本家 vs. 労働者
- グローバルな階級対立？
  - 世界の資本家 vs. 世界の労働者？？？
- どの国で生まれるか >> どの階級に属するか

グローバルな格差の水準と構成



出典：ミラノヴィッチ (2012:108)

国家間の所得をどう比べるか

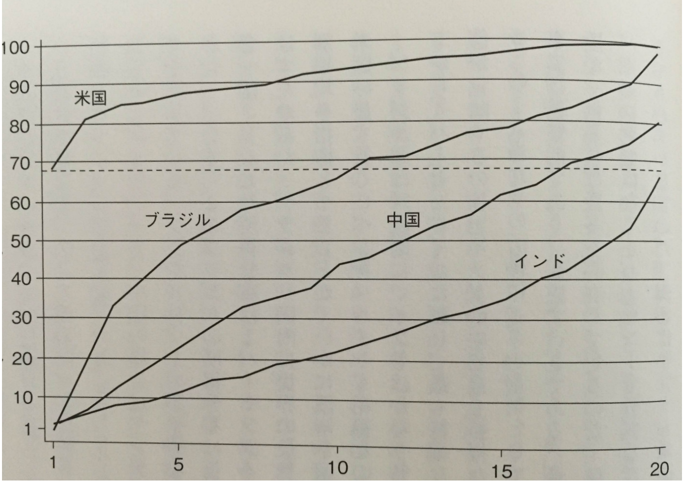
- 比較の対象：GDP（国内総生産）
- 一人当たり
- 購買力平価 (purchasing power parity: ppp)
- 購買力平価（ドル）で測った一人当たり GDP を比較する

平均を比較してよいか?

- 購買力平価（ドル）で測った一人当たり GDP：物価を調整した各国の平均的な所得
- A 国の平均 $>$ B 国の平均：A 国のほうが豊かだと断言できるか？
- 疑問：
  - B 国にも、A 国の平均より豊かな人がいるのでは？
  - そのような人がいるとして、どれくらいいるのか？
- 各国の所得分布を国際的な分布とともに観察する必要

世界の不均衡

世界の所得分布の百分位



各国の所得の20分位

出典：ミラノヴィッチ (2012:111)

豊かな国と貧しい国

- アメリカで最も貧しい 5%：世界の中では下から 68%：最も貧しい米国人でも、世界の３分２の人よりは裕福
- アメリカは先進国の中では格差が大きい国だが、世界的に見るとそうでもない
- ブラジルには、世界で最も貧しい人から世界で最も豊かな人までいる：大きな格差
- 最も豊かな中国人でも、米国人の大部分より貧しい
- 最も豊かなインド人でも、（5%区刻みで見ると）最も貧しい米国人より貧しい
- 平均「だけ」で国を比較することは危険（例：ブラジル）
- 豊かな国と貧しい国の「重なり」は小さい（例：米国とインド）

20 世紀後半の変化

- 豊かな国はより豊かに、貧しい国はより貧しく：格差の拡大
  - 豊かな国の例：アメリカ合衆国
  - 貧しい国の例：アフリカの国々
  - 19 世紀の国家間の格差 $<$ 20 世紀末の国家間の格差
- 最も貧しく、最も人口が多い国が豊かになった：格差の縮小
  - 中国とインドの経済成長
  - 絶対的水準ではまだまだ貧しい
  - 格差を拡大させないために：アメリカが 1%成長する場合
    - 中国は 8.6%成長する必要
    - インドは 17%成長する必要
  - 国家間の格差はどんどん拡大する

所得の決定要因としての「生まれ」

生まれによって所得が決まるか？

- 答え：大部分が生まれによって決まる
  - 60%は生まれた国の経済水準で決まる
  - 20%は両親が所属する所得階層で決まる
  - 性別、人種などの要因
  - 運
- 個人の努力で変えられるのは、最大でも十数%
- どうすれば所得を増やせるか？
  - 個人の努力（階層移動が許されている場合）：大きな上昇は望めない
  - 住んでいる国を豊かにする：個人では達成できない
  - より豊かな国に移住する：移民

所得格差への対応としての移民

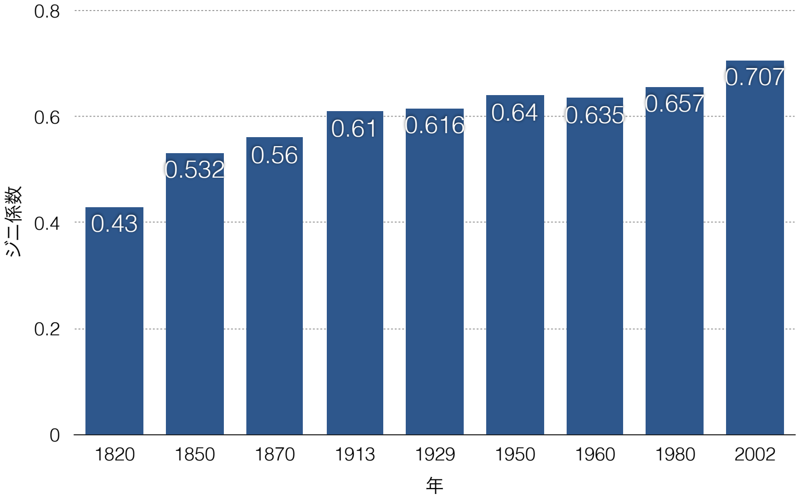
- 国家間の格差が大きい
- 貧しい国から豊かな国への移民：合理的な行動
- 実際の移動はごく僅か：労働力人口の 0.05%程度
- 移民を望んでいる人の数は実際の移民よりはるかに多い
- 世界銀行の移民希望調査：貧しい国では人口の半分以上が移民を希望！
- 豊かな国では労働力への需要がある
- 自由な移動は実現されていない（近い将来も実現しないだろう）

グローバルな格差

- 世界のジニ係数：約 0.7 (物価調整済み)
- 最も裕福な 10%の人が所得の 56% vs. 最も貧しい 10%が所得の 0.7%
- 最も裕福な 5%の人が所得の 37% vs. 最も貧しい 5%が所得の 0.2%
- 物価調整をしないと：上位 10%が 67%以上、上位 5%で 45%の所得

グローバルな格差

グローバルなジニ係数の推移



出典：Milanovic (2009)

グローバルな所得分布の決定要因

グローバルな所得分布を決める要因

- 国内における格差の拡大
- 国ごとの平均所得の分岐
- （一部の）貧困国の急速な発展

問題：

- 国内の不平等は拡大しているのか
- 貧しい国と豊かな国のどちらの成長が早いか
- 中国とインドは豊かな国よりも早く成長しているか

グローバリゼーションとグローバルな格差

グローバリゼーションはグローバルな格差を拡大するか、縮小するか？

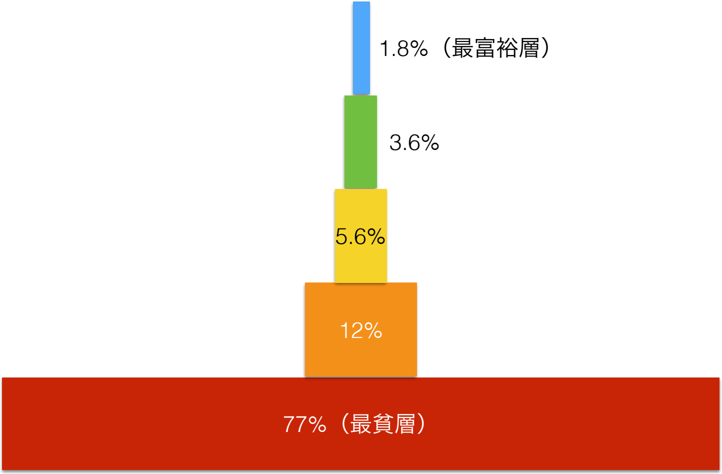
- 国内の格差を拡大し得る
- 国家間の格差を拡大・縮小し得る
- 国家の規模によって影響が異なり得る
  - 大規模（人口の多い）国家に有利かもしれない
  - 大規模国家は貧困国か？（中国、インド、バングラデシュなど）
  - 豊かな国は小規模か

グローバルな格差と地域

グローバルな所得階層を居住地域によって予測できるか？

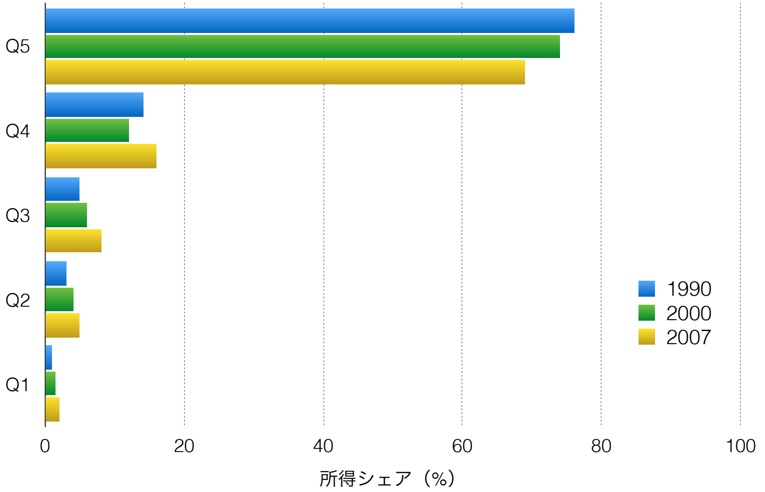
- 世界で最も裕福な 1%（約 7000 万人）
  - 80% は西欧、北米、オセアニアの住人
- 世界で最も裕福な 10%（約 7 億人）
  - 70% は欧米
  - 20% はアジア
  - 5%弱がラテンアメリカ
  - 残りが東欧とアフリカ
- 世界で最も貧しい 10%（約 7 億人）
  - 70% はアジア
  - 25% はアフリカ
  - 5%弱がラテンアメリカ

ピラミッドで表した世界（所得 5 分位）



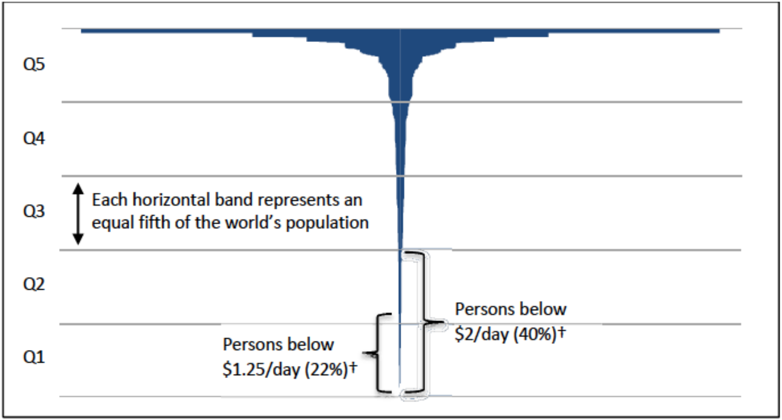
出典：ミラノヴィッチ (2012: 145)

世界の所得シェア：5 分位



出典：Ortiz and Cummins (2011:16)

世界の所得と人口の分布、2007 年



出典：Ortiz and Cummins (2011:21)

世界の中間層

- 中間層：中位所得の上下 25%以内の所得を得ている層
  - 例（中位所得が 350 万円）：262 万円から 468 万円が中間層
  - 例（中位所得が 250 万円）：188 万円から 312 万円が中間層
- 先進国の中間層
  - 人口の 40%程度
  - 中間層の平均所得：国民所得の平均の約 85%
- ラテンアメリカ（格差が大きい国々）の中間層
  - 人口の 20%程度
  - 中間層の平均所得：国民所得の平均の約 60%
- グローバルな中間層（？）
  - 人口の 15%程度
  - 中間層の平均所得：世界の平均所得の平均の約 29%
  - 一人あたり 1 日 3.3 ドル：豊かな国の貧困線の 4 分の 1 以下（物価調整済み）
- グローバルな中間層などというものは存在しない
  - 世界は豊かな人と貧しい人に分かれている
  - どちらに属するかは、地域・国によってほぼ決まる

格差の特徴：アメリカ合衆国と EU を比較してみる

- アメリカ合衆国
  - 州ごとの違いはない
  - 最も豊かな州（ニューハンプシャー）と最も貧しい州（アーカンソー）の平均所得の比は 3 対 2（1.5 倍）
  - それぞれの州で、所得の格差が発生している
  - 格差は、個人間の問題である
- EU
  - 各国内での格差は大きくない
  - 加盟国間で格差が大きい
  - ルクセンブルクとルーマニアの平均所得の比は 7 対 1
  - ルクセンブルクで最も貧しい 5%は、ルーマニアで最も豊かな 5% よりも豊か：所得分布がまったく重ならない
  - 格差は、国家間の問題である
- **EU の政治的課題は？**

格差の特徴：ラテンアメリカとアジアを比較してみる

- ラテンアメリカ
  - 各国内での所得格差が大きい：ブラジルやボリビアのジニ係数は 0.6 弱
  - 地域内で、国家間の所得格差が比較的小さい
  - 2007 年：最富裕のチリ対最貧のニカラグア = 5.4 対 1
- アジア
  - 各国内での所得格差は大きくない：最も不平等な香港でジニ係数は約 0.5
  - 地域内で国間の所得格差が大きい
  - 最富裕のシンガポール対最貧のネパール = 47 対 1
  - 国単位で見た場合、アジアは世界で最も多様な地域
- アジア vs. ラテンアメリカ
  - アジアの富裕国のほうがラテンアメリカの富裕国より豊か
  - アジアの最貧国のほうが、ラテンアメリカの最貧国より貧しい：中国でさえ、ラテンアメリカにあったら下から 7 番目
  - ラテンアメリカで最も平等なウルグアイがアジアにあったら：アジアで 3 番目に不平等

グローバルな格差の何が問題か？

- グローバルな格差は問題ではない？
  - 世界政府がない以上、正す主体がない
  - 各国が「善い」政治をすれば、自然に解消する：国家内の問題
- グローバルな格差がもたらし得る害
  - 政治的不安定化、政治秩序の崩壊
  - 疫病の蔓延
- グローバルな正義

グローバルな格差と政治

- 政治的帰結としてのグローバル格差
  - グローバル格差のどの部分が政治的に生み出されたか？
  - グローバル格差は政治的成果か、政治の失敗か？ あるいは政治とは無関係か？
- グローバル格差によって生じる政治的問題
  - グローバル格差の拡大は、どのような政治的対応を求めるか？
  - 国内政治に対する影響は？
  - 国際政治・対外政策に対する影響は？
- グローバリゼーションとグローバルな格差の関係の解明へ向けて